

伊木清兵衛と戦国の各務原

各務原市歴史民俗資料館 長谷健生^{けんき}

1. これまでにわかっていたこと、研究の糸口

○伊木山とは？

…各務原市鶉沼に所在する、標高173mの独立丘陵。1565年、信長が東濃攻略の際に軍事拠点としたことが『信長公記』に記載されている。

伊木山とて高山あり。此山へ取上り、御要害丈夫にこしらへ、両城（鶉沼城・猿啄城）を見下し信長御居陣候なり。（『信長公記』首巻）

・発掘調査による成果…岩盤を削って平坦面を拡張しており、櫓台状遺構、石積み（現存1.54m）など。土塁や堀切等が見られないため、臨時の軍事拠点か。

○伊木山城主であったとされる伊木清兵衛はどんな武将？

・伊木清兵衛が伊木山上に城を構えた（『濃陽志略』）、城主は伊木長門正久、天正年間野武士の襲撃を受け討死（『美濃雑事記』）、伊木山城主の香川七郎右衛門尉正久が武馬七郎右衛門尉常旗に急襲され討死した（『美濃国故実記』）

…これら江戸時代中期以降の美濃の歴史書では、伊木清兵衛に関する情報が混乱している
⇒美濃以外の地域の史料を活用して伊木清兵衛を解き明かす必要がある

○岡山藩池田家文書の研究によって、伊木家の家譜などが明らかに

【伊木清兵衛忠次（1543～1603）】

清兵衛、豊後守。初名は香川長兵衛。はじめ信長に仕え、美濃侵攻に戦功。各務郡伊木山城を与えられ、姓を「伊木」に改めたという。後、池田恒興に仕え、老臣となる。（中略）関ヶ原の戦いの時は、輝政に従い、岐阜城攻めに活躍した。（『織田信長家臣人名辞典』）

→伊木清兵衛は池田恒興・輝政の家臣。子孫は岡山藩の家老となった。

⇒岡山藩伊木家の家譜、古文書によってわかる事績を整理し、各務原・関の資料や全国の合戦図によって人物像を補完することで、伊木清兵衛像を具体化させることができる。

○戦国時代の各務原市域はどんなところ？

『各務原市史』…鶉沼城の大沢氏などの伝承の紹介。豊臣政権期の領主等については不明とする。

→近年の『愛知県史』の研究成果は、織豊期の各務原研究の基盤となる

+ 全国の美濃に関わった武将の家譜の活用 + 各務原市域の「地侍」層の文書の研究

⇒戦国時代の各務原を明らかにする資料が出揃ってきている。

2. 今回新たに解き明かすこと

- 池田家家老の伊木清兵衛は合戦・政治・築城について、どのように活躍したのか？
- 伊木清兵衛は羽柴秀吉から厚く信頼された武将。その根拠となる史料はどのようなものか？
- 伊木清兵衛と徳川家康はどのような関係だったのか？
- 伊木清兵衛の息子、「伊木豊後」が姫路城の縄張りを行ったというのは本当か？
- 小牧長久手の戦いの際、羽柴秀吉が「鵜沼」「大豆戸（前渡）」に陣を張った意図とは？
- 家康書状が物語る、鵜沼古市場の戦略的重要性とは？
- 戦国時代の前渡の地侍、「片山越後」とは何者か？永井家、栗木家との関係は？
- 各務原の有力農民、永井家の戦国時代以来の由緒とはどのようなものか？
- 関ヶ原の戦いの前哨戦「新加納川越」の戦いとはどのような戦いか？
- 各務原の「地侍」安積家の戦国時代以来の由緒とはどのようなものか？
- 各務原を制するものは天下を制する

☆読んでおくと予習になる書籍、論文☆

- ・栗木謙二・吉岡勲『鵜沼の歴史』1966年
- ・各務原市教育委員会編『各務原市史 通史編 自然・原始・古代・中世』1986年
- ・各務原市教育委員会編『かかみ野の風土～産業と人物』2004年
- ・藤田達生『小牧・長久手の戦いの構造』2006年 岩田書院
- ・谷口央編『関ヶ原合戦の深層』高志書院 2014年
- ・岡山大学附属図書館編『天下人の書状を読む 岡山藩池田家文書』2013年 吉川弘文館
- ・谷口央「池田恒興・照政と美濃国・三河国一近世大名池田家の創出過程一」（岐阜県博物館企画展 図録『信長・秀吉・家康と美濃池田家一大御乳・池田恒興・輝政の戦い一』2018年）

【クイズ】この写真はいつ、どこを撮影したものか？（→答えは会場で）

